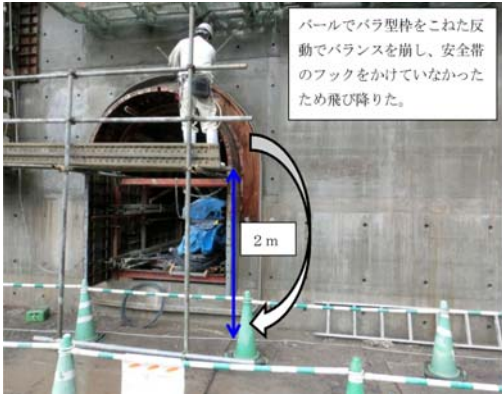


機密性2情報					
事故種類	労働災害	発生日時	平成27年11月12日 7時55分		事故当事者
事故区分	墜落・転落	年齢性別	44歳 男性	職種	型枠大工
被災程度(全治)	左踵骨折(全治3ヶ月程度)				
事故概要	足場上で監査廊部のバラ型枠解体作業中にバールでこねた際、思っていたよりも軽く型枠が外れたため、勢い余ってバランスを崩し身の危険を感じた被災者が安全帯のフックをかけていなかったため高低差約2mの足場上より飛び降り、着地の際に左足踵を強打した。				
事故原因等	①バラ型枠を取り外す際、力を込めたが思ったよりも軽く型枠が外れたため体勢が崩れた。 ②安全帯を着用はしていたが使用していなかった。 ③KY 活動で危険要因・対策を挙げていたが守られていなかった。(KY のマンネリ化)				
改善策等	① 高所作業時には必ず安全帯を使用して作業する。 ② 慣れた作業でも一呼吸おいて現場状況や安全設備を確認してから作業する。 ③ KYがマンネリ化しないよう、その日の作業内容に応じて固有名詞まで入れて具体的にを行う。(いつ誰がどこで何をしようとする) ④ 当日の作業の手順再周知をKY時に実施する。 ⑤ 作業前には作業員全員に作業手順の更なる周知をしてから作業を行う。 ⑥ 元請職員、協力会社職員が安全設備に不備がないか確認を行う。 ⑦ 一時的に設備が不安全となる箇所は親綱を先行設置する。(作業場所、作業班に関係なく見つけたら即正する。) ⑧ 作業しにくい箇所では補助作業員を付けて2人で作業し、共同作業者、周囲の作業者が一声掛ける。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・現地事故調査委員長より管内の全主任監督員へ注意喚起 ・主任監督員より「安全管理の再周知・再徹底」の文書発出(全請負者)				

事故状況図

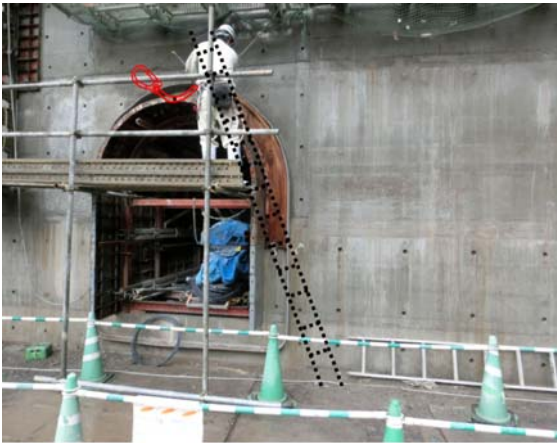


事故発生箇所平面図



事故発生状況写真

改善策



■安全帯のフック設置

5W1H	Whenいつ (時間・時刻)	Whereどこで (場所・装置)	Whoだれが (人物・作業主体)	Whatなにを (対象・操作対象)	Whyなぜ、 何のために (目的・理由)	Howどのように (手段・実施方法)
どこにどんな危険が潜んでいるか	1 溶接時や感電する	2 型枠けんけんけんスガリに力が入る	3 高所作業時、バランスをくずれ足場から転落する			
危険性又は有害性の特定 (〇印について対策をたてる)						
だから私達はこうします	1 保護具(安全帯・安全網)の使用・不具合は直ぐに報告する	2 保護具が正しく使用し作業する	3 安全帯フックは、無理なく設置し作業する			
危険性又は有害性の除去、低減対策 (危険度IV、Vについて)						

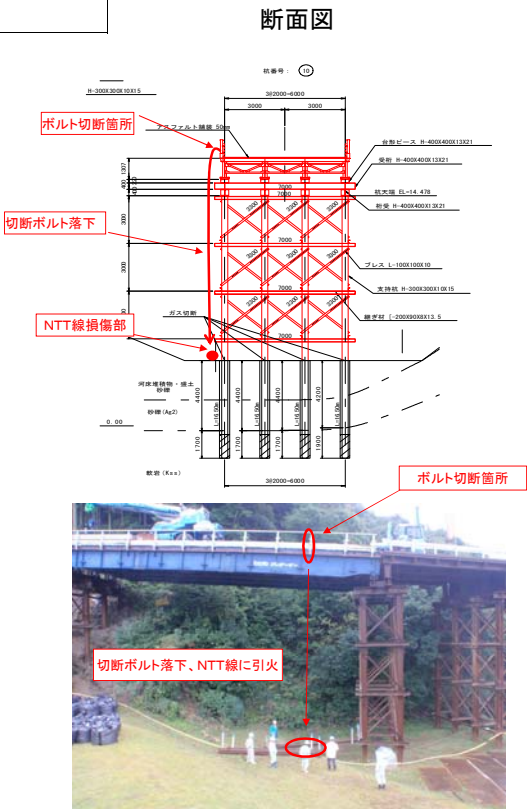
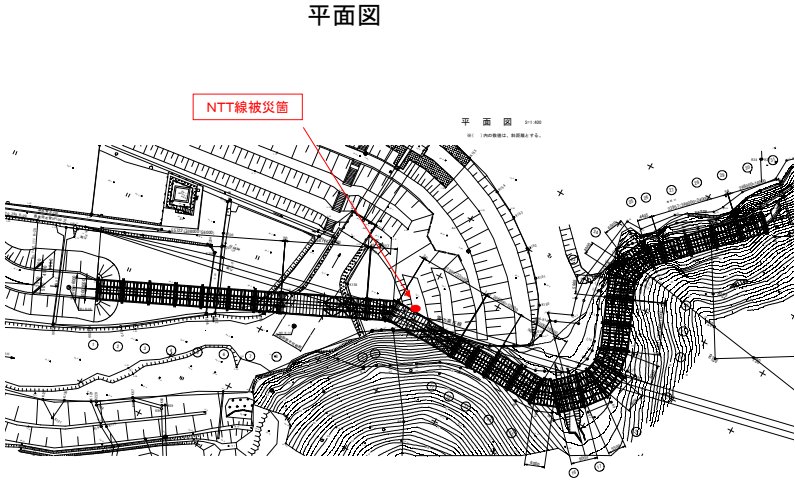
■KY活動の具体化例

〇〇(施工箇所)において監査廊上部バラ型枠解体作業時、〇〇、〇〇(作業員名)が足場上でバランスを崩し安全帯を使用していなかったため足場から転落する。

監査廊上部バラ型枠解体作業時は、高所作業となるため、一時的に設備が不安全となる箇所は親綱の先行設置を行う。また、作業時には必ず安全帯の着用を徹底する。

事故種類	公衆災害	発生日時	平成27年11月17日 10時53分	事故当事者	1次下請け
事故区分	切断	年齢性別	33歳 男性	職種	普通作業員
被災程度(全治)	無し				
事故概要	仮橋高欄(ガードレール)のボルトをガスにて切断中、切ったボルトの破片が直下のNTT線へ落下し、防護カバーに引火した。 その結果、NTT線(固定電話100回線中の60回線)及び光ケーブル(全24芯)に損傷を与えた。 ※固定電話: 契約件数30件。 光ケーブル: 契約件数10件。 ※利用者からNTTへ被害報告無し。				
事故原因等	1) 仮橋撤去作業(高欄部等)において、施工計画書に記載の無い施工方法(ガス切断によるボルト切断、高温状態のボルト叩き落とし)を実施した。 2) 安全管理計画において火災防止に関する記載が無く、定期安全点検の点検項目についても具体性に欠けていた。 3) ガス切断中は散水をするように作業指示していたが、下請作業員が「雨が降っていたため散水不要」と判断し、散水を怠った。(ヒューマンエラー) 4) NTTによる仮移設が事前協議通りになされておらず、NTTへの改善申し入れ、並びに当該工事における予防措置を講じていなかった。 ※今回、NTT側も仮移設の現地状況について非を認め、施工業者に対する損害賠償請求はしないとのこと。				
改善策等	1) 高欄部の解体時はボルト部でのガス切断は行わず、地覆部での切り離しによる大ばらしを行い、安全な地上にて部材別の切り離しを行う。 2) 当該現場に特化し、点検項目を具体化した「火災予防対策チェックリスト」を新規作成し、安全巡視員がチェックを行う。 3) 日々の朝礼時において、元請職員より全作業員に対し、火災予防対策について周知徹底を行い、安全意識の高揚を図る。 4) NTTへ改善の申し入れを行うとともに、ガス切断時の火の粉による火災防止のため、当該工事にてNTT線の縦断方向に、散水により常に湿潤状態のマットを被せたA型バリケードを設置する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・全施工業者に対し、事故再発防止に向けた安全管理に対する再教育を実施する。 ・「火災予防対策」、「明確な作業指示の徹底」の観点から、類似工事事故の再発防止を図る。				

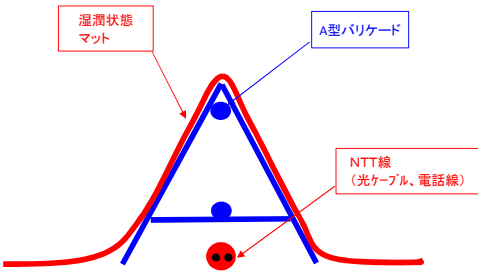
事故状況図



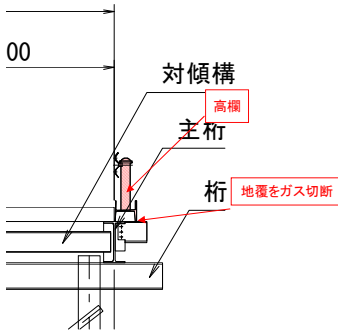
改善策



A型バリケードをNTT線の上部に設置し
湿潤状態のマットで覆い防災処置を行う。



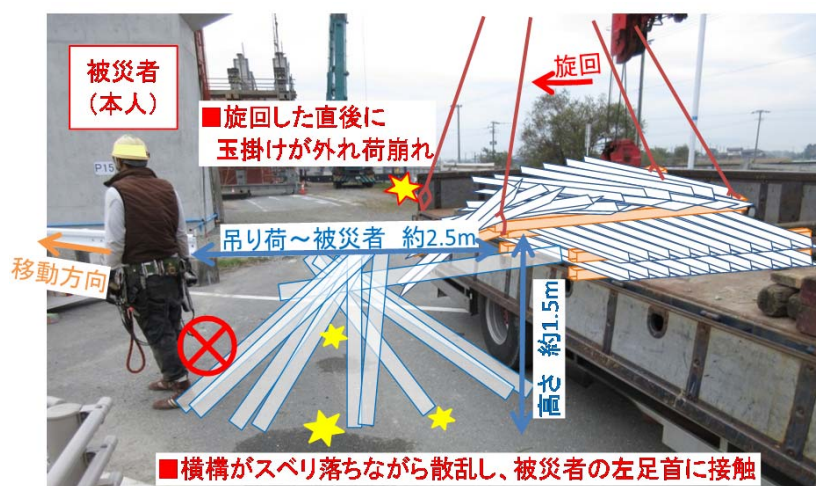
マットを常に湿潤状態に保つ為散水を行
い防災対策を行う。



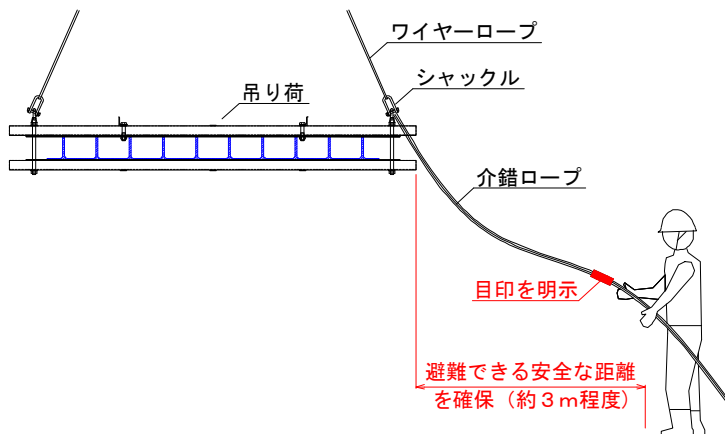
高欄の解体は、ボルトガス切断を行わず
地覆よりガス切断で切離し大ばらしを行
い地上で部材別の切り離しを行う。

事故種類	労働災害	発生日時	平成27年11月26日午後2時45分	事故当事者	2次下請け
事故区分	飛来・落下	年齢性別	21歳・男性	職種	橋梁特殊工
被災程度(全治)	左足首打撲				
事故概要	トラックからリン木に載せた横構(2次部材)を荷下ろしする際、4点吊りしたリン木の1点がはずれ、荷崩れを起こした。荷崩れを起こした横構がスベリ落ちながら散乱した際、被災者の左足首に接触し、打撲した。				
事故原因等	①玉掛けの掛かりが浅く不十分であったが、玉掛け直しをしなかった。 ②移動しながら旋回合図をしたため、監視を怠った。(背を向けていた) ③地切り後、荷崩れしても避難できる安全な距離を保っていなかった。				
改善策等	①吊り具の玉掛け状況の確認を確実に行う。(指差呼称を行う) ②玉掛け作業動作を徹底する。(玉掛け作業の3・3・3運動の実施) ③目印を明示した介錯ロープを使用し、避難できる安全な距離を確保する。 ④その他 ・地切り作業前の人払いを徹底する				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	①吊り具の玉掛け状況の確認を確実に行う。(指差呼称を行う) ②玉掛け作業動作を徹底する。(玉掛け作業の3・3・3運動の実施) ③地切り作業前の人払いを徹底し、荷が崩れても避難できる安全な距離を保つ。				

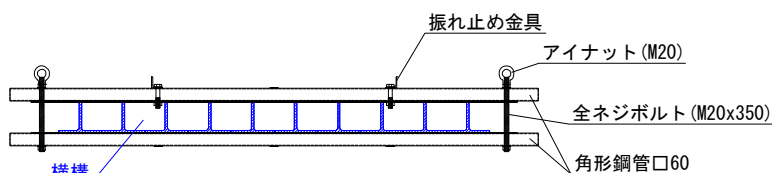
事故状況図



改善策



- ① 指差呼称で確認 ②玉掛け作業の3・3・3運動の実施
- ④地切り作業前の人払いを徹底する



—横構専用吊具を製作・使用

- ③避難できる安全な距離を確保